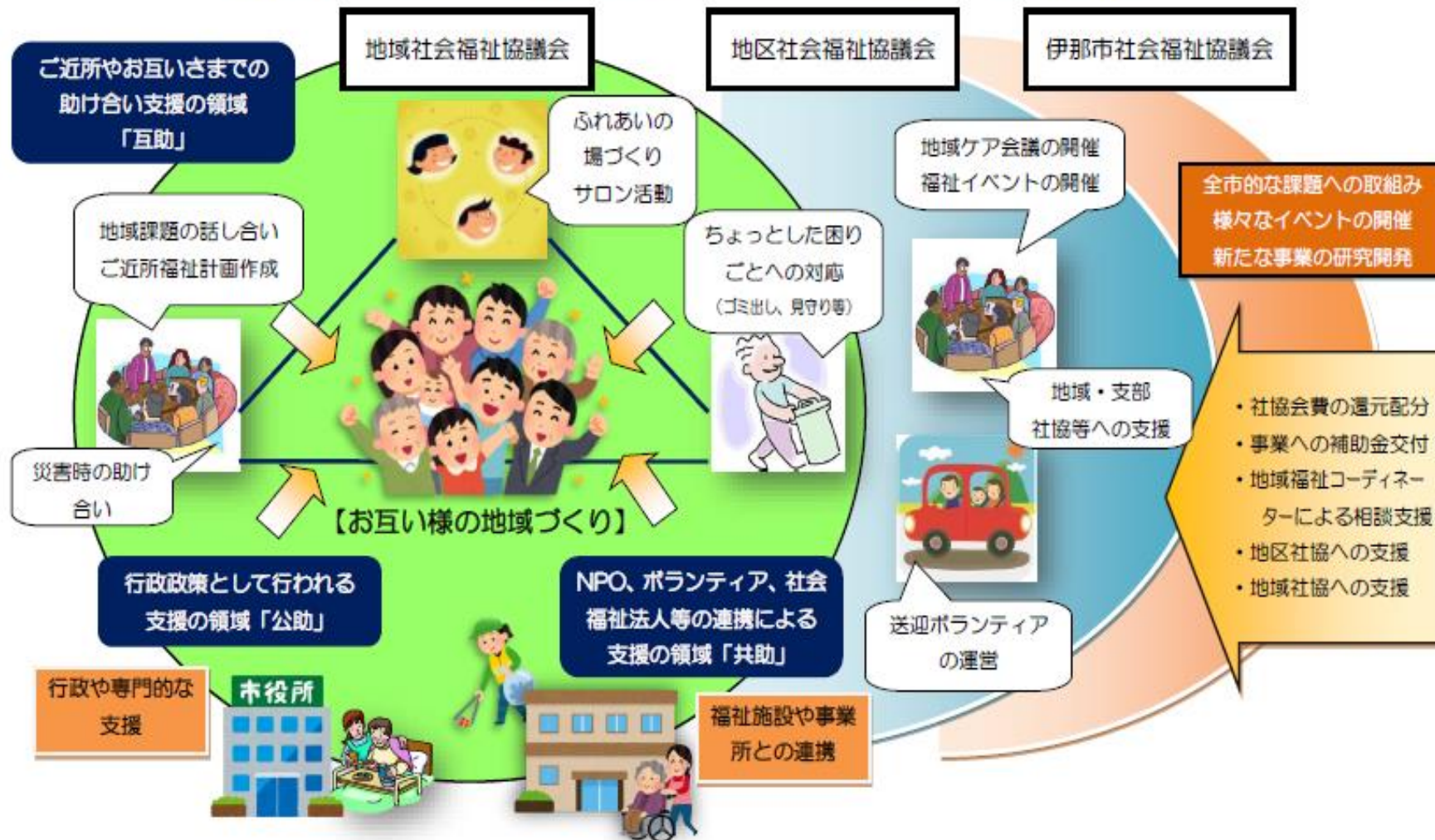


これから求められる地区・地域社協の役割

コロナ禍でも「つながり」を止めないために

社会福祉協議会における小地域福祉活動のイメージ

『ふれあいの場づくり ⇒ 支えあいのシステムづくり ⇒ お互いさまの助け合い活動』

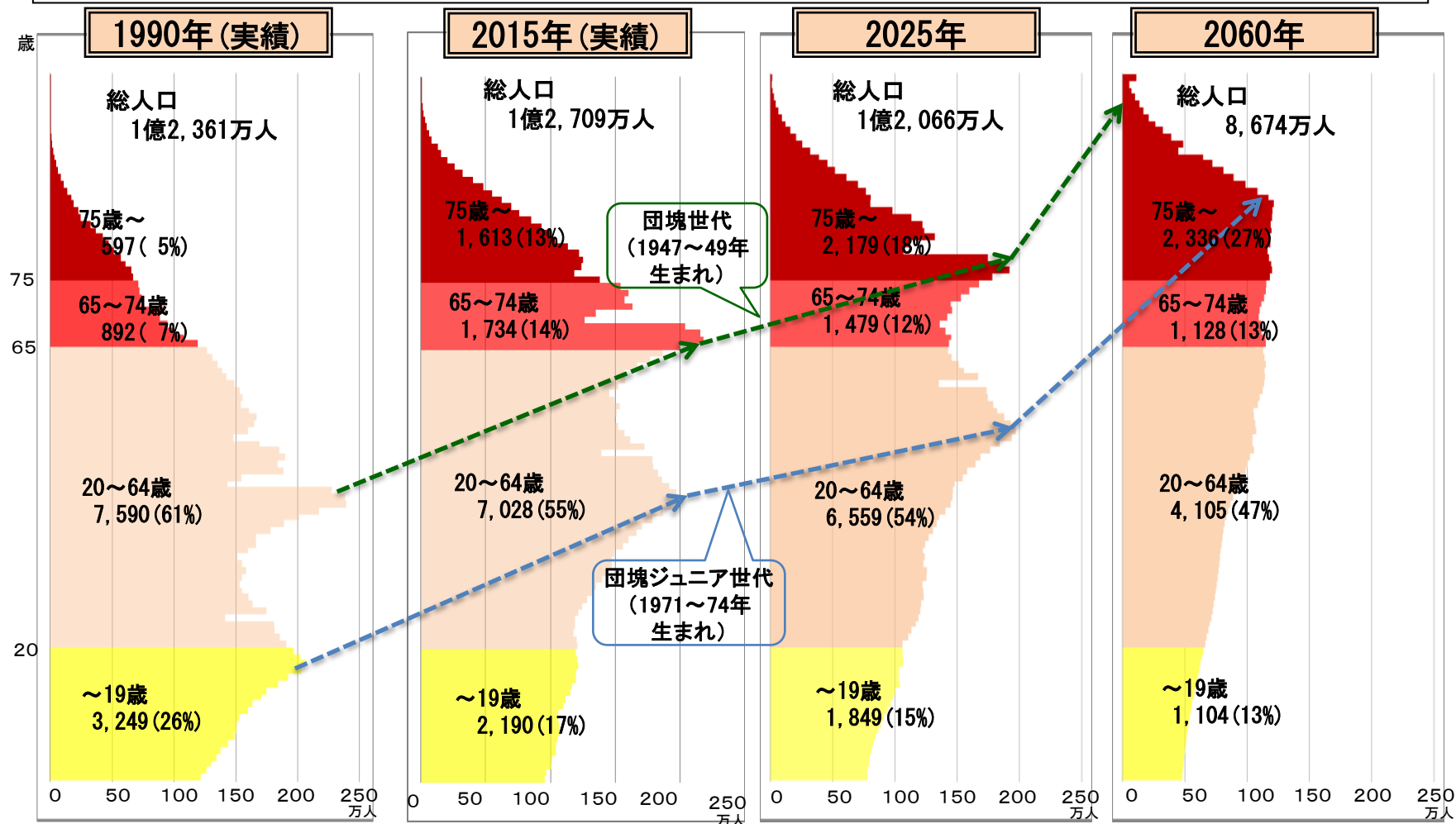


今なぜ住民同士の 助け合い活動が求められるのか

- ▶ 地縁、血縁、職縁が薄れ、「無縁社会」と言われるような社会状況の変化により、これまで家庭や地域、あるいは職場で対応されてきた問題の解決が困難になってきています
- ▶ 公的な福祉制度や行政だけで支援することは困難であり、住民同士がお互いに支え合い、助け合う関係を築き、住民自らが生活課題、福祉課題の解決を図ることができるための組織や仕組みづくりが求められています

日本の人口ピラミッド（1990－2060）

- 団塊の世代が全て75歳となる2025年には、75歳以上が全人口の18%となる。
- 2060年には、人口は8,674万人にまで減少するが、一方で、65歳以上は全人口の約40%となる。



(出所) 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計): 出生中位・死亡中位推計」(各年10月1日現在人口)

支え合いが難しくなった 家族形態の変化

- ・ 人口は減っているが世帯は増えている（一人暮らしの増加）
- ・ 支える若者人数が減っている（ひとり親等）
- ・ 「本家」、「親族」機能の衰退
- ・ 空き家の増加 等

**「ふれあい、支えあい、助け合う、
お互い様の地域づくり」
に向けて**

「ふれあい、支えあい、助け合う、 お互い様の地域づくり」

▶ 「ふれあい」の活動

- ・ 三世代がお互いの顔を知り、子育てを地域で支える風土を形成する
「にじいろサロン」
- ・ 交流会食会、レクレーション、子育て相談などを取り入れた
「すくすくサロン」
- ・ 健康づくりの仲間、お茶のみ仲間など、地域のいろんな人に声をかけて、
時間を共有する「いきいきサロン」
- ・ 小人数が集う日常的な居場所を地域に作り、繋がりの再構築を行う
「まちの縁側」

すくすくサロン

西春近 小出島社協

8



地域で
子育て！

「ふれあい、**支えあい**、助け合う、 お互い様の地域づくり」

▶ 「**支えあい**」の活動

「福祉懇談会や講習会」による福祉に関する研修や意見集約、
「地域ケア会議」による地域課題の把握

**目指せ！逃げ遅れゼロ！「災害時住民支えあいマップ」の作
成と、マップを活用した課題集約や避難訓練**

地域ケア会議 西箕輪地区社協

10



課題を出し合い、
できることから
始めましょう

「ふれあい、支えあい、助け合う、 お互い様の地域づくり」

11

▶ 「助け合い」の活動

「ゴミ出し」「1人暮らし高齢者の安否確認」「雪かき」
など、公的な制度では対応しきれない、ちょっとしたご近所
の助け合い活動

あったかご近所ネット 上牧地域社協

12

身近な助け合
い活動から

平成30年11月17日 ボランティア活動開始

1回目の今回、19名の方々に参加頂き中部常会の垣根の剪定を行いました。
少人数では大変な作業も、短時間で終了することが出来ました、お疲れ様でした。



小地域での福祉活動取組みの 方向性について

▶行事型から生活支援型へ

身近な地域の住民福祉活動が求められています

見守り・安否確認 → 早期発見

相談活動 → 身近なニーズキャッチ

生活支援 → 買い物・移動・見守り（声かけ）

地域福祉コーディネーター

14

- ▶ 地区・地域社協を核とした**住民主体の地域福祉活動をより一層推進**し、住民支え合い活動の推進を図るための取り組みを行います
- ▶ 公的な福祉サービスでは十分な対応ができない課題などに対し、**様々な団体・組織の地域福祉活動を育む**ことにより、地域の生活課題の解決を目指します